男死

不国天有寿

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者またはは「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

男死

【Ｎコード】

Ｎ００３６Ｐ

【作者名】

不国天有寿

【あらすじ】

草食系男子という言葉が生まれてから２０数年後の日本。　女性の権力はどんどんと膨れ上がり、国会議員は全て女性。彼女達の下した決断は日本から男を消すこと。　今こそ立ち上がれ日本男児！そんな感じです。

宣告３８

男女平等。

　１７９２年にメアリ・ウルストンクラフトが執筆した『女性の権利の擁護』から始まったとされるこの腐った考え方が、俺達に平等な死を与えることになる。

　２０３０年を目前に、少子高齢化の止まらない日本の人口は1億人を下回ったことが発表された。日本初の女性内閣総理大臣誕生してから１７年後のことだ。

　原因は女性雇用率の上昇による結婚、出生率の低下。女性の権力は膨れ上がり、日本はいつの間にか女性中心社会になっていった。

　生涯独身という考え方が横行し、子供は精子バンクでより優秀な精子を受精することが日本人女性達のステータスとなり、同性間の結婚も認められた。夫のいない家庭が一般的となり、父親のいない子供はＣｈｉｌｄ　ｏｎｌｙ　ｏｆ　ｍｏｔｈｅｒを略しＣＯＭ（コム）と呼ばれた。産み分けにより男子の数はさらに減少していった。出産の平均年齢は３５歳にまで上がった。

　男は下等な生物として扱われた。それに疑問を唱える女性などいない、彼女達どんなに幸福でも何故か悲劇のヒロインを演じる。

　２０３５年2月、この年男女比０対１０の日本政府はとんでもない政策を打ち出す。

　総理大臣からテレビの電波を使い『国民の皆様にお願い』があるらしい。テレビに映りマイクの前に立ったのは１２代目の女性総理

大臣、田嶋良子だ。短命に終わってきた今までの女性総理大臣の中では長く持ってるほうだが、結局中身は女性に都合のいいことを言っているだけ。

「我が国の借金の原因はこれまでの男性中心の社会がもたらした結果であり、その責任を取ることが日本男児としての当然の行為であると言えます。」

　自己紹介もないまま話し出した。都合のいいときだけ日本男児か、そんなことを思っていた。またろくでもないことを言うに決まっている。

「昨日、日本の領土内に大量の地下資源が埋まっていることが判明しました。今回の『お願い』はそれの発掘をする人員の募集であります。」

　どうせ今の時代に男の仕事は力仕事くらいしか残っていない。いいニュースだ、国の応募なら給料もいいだろう。しかし、冒頭の責任を取るという下りが気になる。

「日本人男性の年齢２０から５５歳の人なら誰でも構いません。約2年間働いてもらいます。応募、給料、手当等に関して詳しくは政府のホームページで確認してください。選考の結果約１００万人に絞ろうと考えております。」

　１００万人、すぐには想像できない数だな、そんなに大量の人手が必要な量なのにたった2年間、何かおかしくないか。考える間もなく田嶋は続けた。

「それ以外の男性方には今年中に死んで頂きます。」

　人類の歴史上に女性の『お願い』が男にとって有益であった試しがないことを、俺は忘れていた。

ギガドレイ

田嶋の言ったことと政府のホームページで確認したことをまとめる。

地下資源は四国のほぼ中心から半径約７５ｋｍの円の範囲に埋っている。四国の大半を占めている為、今までそこにいた住民は全て本州に移住させる。

２０歳から５５歳の１００万人と言ったが全員が力作業だけではなく、宿泊施設の管理や調理なども応募した人達に任せる。食糧や衣服、もちろん給料も税金から出される。

寝泊まりの場所はそれまで人が住んでいた家を使う。どうやら四国全体が巨大な工事現場になるようだ。

工事完了後もそこに留まり現場の管理をしながら一生暮らしていく。最近の男の仕事にしては待遇はとても良く、週休も基本は２日ある。

応募期間は明日から2週間、応募と言っても全国ほとんどの病院で簡単なチェックがあるだけ。チェックに通ればすぐに現場へ向かうことになる。応募に落ちた人は１ヶ月後から政府によって殺される。

４０００万人を超える人間を殺すなんてことをできるわけがない。当然だ。

田嶋の死んで頂くという言葉の意味は、簡単に言えば日本人男性の奴隷化ということらしい。憲法は１か月後には改正されているそうだ。国が人権を否定することは殺すことと同じか。四国に移ることのできる人間は四国内でのみ奴隷としては扱わない。

以上。

こんなことが認められるのか、ここまで日本は落ちていたのか、だが今の日本に我こそはと立ち上がる人間はもういない。思えば、２０年前からすでに奴隷化は始まっていた。それに大義名分を付け加えただけだ。

もういい、今日は寝て明日病院に行ってこよう。
まだ２０時前だった俺は布団を引いて電気を消して横になった。
奴隷なんてごめんだ、俺は人間として生きる。
溢れそうになる涙に気付かないように、僕は眠った。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0036p/

男死

2010年11月24日16時31分発行